

## 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

<b>学校名</b>	YMCA 学院高等学校
<b>取り組む課題</b>	生徒の自立を支える教育の充実
<b>評価指標</b>	・健康に不安をもつ生徒へのヘルスケアを通じた中途退学率の減少
<b>計画名</b>	『誰もが学びをあきらめない』 ～Spirit（精神）・Mind（知性）・Body（身体）を育むヘルスケアの実践～

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

<b>学校経営計画の 中期的目標</b>	<p>2. 生徒理解を深め、生徒一人ひとりに添った生徒支援を実現する。 （2）専門家や外部との連携を積極的に行う。</p> <p>3. 確実な進路補償の仕組みを作る。 （1）学び直しができる仕組みを整え、進路に向き合う力を育成する。</p> <p>4. 開かれた学校づくりをし、生徒が活躍できる場を増やす。 （2）生徒が主体的に関わるスクーリングや特別活動を実施する。またボランティアや生徒間交流の機会を提供する。</p> <p>5. 持続可能な学校とするための体制を確立させる。 （1）社会の大きな変革の中で、新しい学校の形を探究し、社会に貢献できる学校をめざす。</p>
<b>事業目標</b>	<p>『誰もが学びをあきらめないためのヘルスケアの実践』に向けた取組み目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 心のケア（Spiritの涵養）：自分の在り方を見つめ、他者と関わる力をつける体験学習を中心としたスクーリングを実施し、人格形成や自己効力感の向上をめざします。</li> <li>■ 学びのケア（Mindの涵養）：レポートサポートをより充実させ、YMCA 学院高校のオリジナルメディア利用学習課題を新たに作成し、遠隔授業を実施、通学が困難な生徒を含めた、誰もが学びを継続できる取組みを行います。</li> <li>■ からだのケア（Bodyの涵養）：定期的な健康講座（オンライン実習含む）の実施や歩数や筋力測定によって、生徒が自分の体調を客観的に把握し、基礎体力をつけます。また生徒が相互に支えあえる関係を構築することによって、実習が継続できるような仕組みをつくります。</li> </ul> <p>上記を踏まえて、具体的な取組み（「わいわいカフェ」・親と子のサポートグループや、医療（関西医科大学）や福祉（公益財団法人大阪 YMCA）との連携によるチームでのヘルスケア実践、進路支援等）を実践。その結果学びをあきらめず、未来に希望を抱き、人と人とのつながりを大切する「ひとづくり」を行います。</p> <p>さらに、生徒自身がボランティア活動を通して「自己効力感」を感じられるようになることをめざします。</p> <p>また人材育成のプロセスや成果について HP での公表や学会発表を通じて社会への還元を果たします。</p>
<b>整備した 設備・物品</b>	パソコン、プロジェクター、プロジェクター天吊金具、ウレタンマット、折り畳み長机（低床）、液晶ディスプレイ、ビデオカメラ、三脚、ウェアラブルデバイス（スマートウォッチ）、統計ソフト SPSS
<b>取組みの 主担・実施者</b>	<p>主担：生徒支援部会（教頭、主任、カウンセラー（臨床心理士）・特別支援教育コーディネーター、養護教諭、教員、アドバイザー）</p> <p>取組みの実施者：全教員</p>

	<p>連携者：公益財団法人大阪 YMCA・関西医科大学小児科学講座・大阪総合教育支援研究所</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>【前年度から継続している取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員(担任) 生徒支援会議 (4月～8月・10月～2月)</li> <li>・ 関西医科大学医師によるヘルスケアに関する講演会の実施/サポートグループ的グループワークの実施(健康に不安を持つ生徒・保護者のつどい&amp;学習会/わくわく健康講座顔合わせ) (5月・10月)</li> <li>・ 自然の中のハイキングとワークを組み込んだ「五感で自然を感じよう」スクーリングの実施 (6月)</li> <li>・ 連携機関(関西医科大学小児科学講座・公益財団法人大阪 YMCA) とケース会議の実施(定期的に実施)</li> <li>・ 月平均の歩数測定 (毎月)</li> <li>・ ウェアラブルデバイス(スマートウォッチ)使用(前期・後期)。健康講座によるストレス減少を確認し動機づけとした。</li> <li>・ 健康講座(オンライン実習)(前期:15回 後期:15回 実施)</li> <li>・ 下肢筋力測定 (5月・2月)</li> <li>・ 歩数分析結果の取りまとめ、次年度への課題抽出、次年度のヘルスケア計画策定 (2月)</li> <li>・ 生徒の自己効力感のアンケート調査・データ分析 (5月・3月) ※ベースラインの測定</li> <li>・ 健康講座(オンライン実習)においてオンラインヘルスケア受講者に学校内会場での参加も積極的に促し実施</li> <li>・ 健康に不安がある生徒のキャンプ@六甲山 YMCA (1泊2日 8月)</li> <li>・ 生徒・保護者の満足度アンケート実施 (3月)</li> </ul> <p>&lt;通年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の関係・居場所づくり「わいわいカフェ」の開催 毎週月曜日開催</li> <li>・ 希望者にスタディサプリを導入し、教員と生徒間の指導を実施</li> <li>・ カウンセリング</li> <li>・ 教育相談</li> <li>・ 大阪総合教育支援研究所との連携した教員養成を実施・臨床心理士による教員向け傾聴トレーニングを実施</li> <li>・ HP に実践事例発信</li> <li>・ 15時開始の学びなおし講座</li> <li>・ レポートサポートを実施</li> <li>・ 進学に向けた自学自習の場「進学サポート」(英・国) ※夕方開催</li> </ul> <p>【今年度からの取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリジナルメディア学習課題の作成・実施 (12月～2月)</li> <li>・ 健康講座で生徒同士が互いの取組みを継続し、関係性を深めるためピアサポートアプリの導入・健康講座回数 増 (6月～8月・12月～2月)</li> <li>・ コミュニケーション系講座を中心とする体験学習(総合科目)実施 (7月)</li> <li>・ ヘルスケアが必要な生徒を中心に据えた体育実技の実施 (1月)</li> <li>・ 希望者にスタディサプリを導入し、学習促進を促す個別面談を実施</li> <li>・ 研修を受けた担任による傾聴を通じた面談の実施(希望者、毎月)</li> <li>・ NPO 法人 D×P「クレッシェンド」と連携しグループワークを実施(自己理解・進路支援)(9月から全4回)</li> </ul>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 単位修得率 90%以上</li> <li>② 中途退学率 4.3%以下。(M)</li> <li>③ 下肢筋力測定(CS-30)について各個人の初回測定の110%増。</li> <li>④ 歩数測定で、初回測定の110%増。(B)</li> <li>⑤ 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均6人以上。</li> <li>⑥ 保護者・生徒アンケート(4段階評価)で肯定的評価を80%以上。関西医科大学に自己効力感調査の分析・考察による検証。(S)</li> </ol>

<p style="text-align: center;"><b>自己評価</b></p>	<p>① 単位修得率（単位修得人数÷単位登録者数）目標値：89%以上 ⇒結果：88.1%（今年度前期・後期スタディサブリを導入し、学習促進を促す個別面談を実施した結果）……………（△）</p> <p>② 中途退学率（年度退学転出者÷（年度末在籍者+年度退学転出者+前期卒業生）） 目標値：4.3%以下 ⇒昨年度 結果：4.2% 今年度 結果：2.6%……………（◎）</p> <p>③ 下肢筋力測定（CS-30）の目標を28回に設定。各個人の初回測定の前年比110%増。 結果：159%（AV20回）＊測定慣れによる増加分も考えられる。……………（○）</p> <p>④ 歩数測定で8000歩を目標値とし、初回測定の前年比110%増。 結果：162%増（AV4,921歩）……………（○）</p> <p>⑤ 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均6人以上。……………（◎）</p> <p>⑥ 生徒・保護者の満足度アンケート実施 80%以上……………（◎）</p> <p>⑦ オリジナルメディア学習課題の作成・実施（12月～2月）……………（○）</p> <p>⑧ 健康講座で生徒同士が互いの取組みを継続し、関係性を深めるためピアサポートアプリの導入（6月～8月・12月～2月）……………（△） ＊ピアアプリ（みんなチャレ）の導入については、アプリのダウンロードができない生徒が50%以上となったため、導入するまでには至らなかった。口頭によるグループでの進捗確認を行うことで目的を補完した。</p> <p>⑨ コミュニケーション系講座を中心とする体験学習（総合科目）実施（7月）……………（○）</p> <p>⑩ ヘルスケアが必要な生徒を中心に据えた体育実技の実施（1月）……………（○）</p> <p>⑪ NPO法人D×P「クレッシェンド」と連携しグループワークを実施（自己理解・進路支援）（9月から全4回）。より円滑なコミュニケーションを取り、学校に慣れること、自己効力感の高揚を目指した。結果、受講した生徒の単位修得率、前期78%→100%、3年次生徒2名は卒業。……………（◎）</p> <p>⑫ 関西医科大学による自己効力感調査による分析・考察による検証、主観的評価「セルフ・エフィカシー尺度」統計解析はSPSS® Ver. 28で実施。→（今年度 4月・3月 / 11ヶ月検証）3月末分析・4月末検証、評価を予定……………（○）</p>
<p style="text-align: center;"><b>次年度に向けて</b></p>	<p><b>【次年度に向けた取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルメディア学習課題の実施（1・2年次生 5月～8月・10月～12月）</li> <li>・宿泊研修（8月）</li> <li>・生徒の自己効力感のアンケート調査・データ分析（5月・3月）</li> </ul> <p>＜通年＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・YMCA 事業所と連携したボランティア活動を通じた対人支援の実施（希望者）</li> <li>・生徒の体力・自己効力感に関する研究結果発表（HP/学会）</li> </ul>

### 3. 事業費報告

今年度事業費総額	933,385	円
----------	---------	---

#### 積算内訳

\*決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

	科目（節）		内訳	単価	数量	金額	
		番号					
積算内訳	1	報償費	1	講演会（生徒・保護者対象）	¥55,685	1	¥55,685
			2	メディア利用課題用動画作成（20講座）	¥6,000	10	¥60,000
			3	クレッシェンド（キャリア形成講座）	¥136,364	1	¥136,364
				クレッシェンド（キャリア形成講座消費税）	¥136,363	0.1	¥13,636
			4	健康講座講師料（2名）	¥12,000	30	¥360,000
			5	ハイキング・宿泊実習指導費（2名）	¥20,000	4	¥80,000
			6	アドバイザー料（医師、月1回）	¥200,000	1	¥200,000
	7	わいわいカフェ（ボランティア交通費、年16回）		19	¥27,700		
				小計	¥933,385		
				小計			
				合計	¥933,385		